

新潟支店 新潟県の 農業発展を考える

「農業経営支援セミナー」を開催。講演会では、スーパー野菜バイヤーの小堀夏佳氏が「キラ～野菜を生み出すヒント」、一般財団法人農政調査委員会理事長の吉田俊幸氏が「米産業の未来」をテーマに登壇。

小堀氏は「既成概念を覆すような感動が必要だ」と、吉田氏は「新たな需要を海外に求めるべき」と強調しました。

参加者からは、「自身の生産する野菜の見方が変わった」などの感想が寄せられました。

11月19日、於：新潟市、共催：新潟県農業法人協会、参加者：公庫お客さまなど150人



小堀氏のお話しを真剣に聴く参加者

横浜支店 神奈川県内の 新規就農者と意見交換

神奈川県内の新規就農者5人と新規就農の活性化について意見交換会を開催しました。

新規就農の経緯や自身の考える経営の強みなどを発表していた。いたうえで、経営の向上や新規就農者を増やすために期待する、行政や金融機関などの取り組みについて意見を交わしました。

「情報のワンストップサービスの充実を期待する」「先輩就農者から情報を得ること、地元の人とのつながりを持つことが大切」といった声がありました。11月30日、於：横浜市、共催：関東農政局神奈川県拠点、参加者：農業者5人など11人



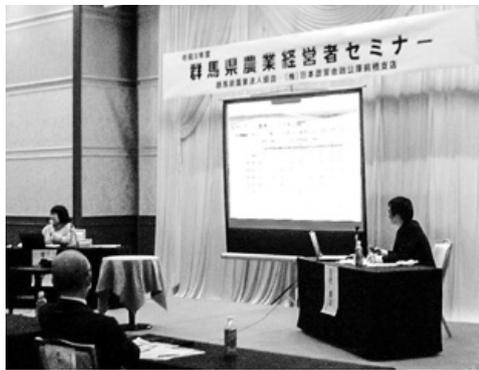
自身の経営について語る新規就農者

前橋支店 人材テーマに 対談形式のセミナー

「群馬県農業経営者セミナー」では、農業分野に特化した人材事業を展開する株式会社あぐりーん代表の吉村康治氏と、株式会社アウラ心理教育センター代表の本多公子氏が「採用×定着」をテーマに対談。

経営ビジョン達成には採用戦略と定着職場環境づくりが密接不可分。採用段階から一人一人と向き合うことが重要だと話しました。

参加者からは、「人材育成の方策を見直したい」などの感想が寄せられました。12月8日、於：前橋市、参加者：群馬県農業法人協会会員、公庫お客さまなど40人（オンライン含む）



壇上で対談する吉村氏（右）と本多氏

鹿児島支店 第10回「食と農を結ぶ 交流フォーラム」開催

第10回目となる今回は「事業承継」をテーマとしました。

基調講演では、株式会社さくら優和コンサルタント代表の新徳博幸氏が事業承継の重要性や方法を述べました。事例発表では、第三者継承をおこなった農業・食品企業

2社の継承者、被継承者が経験を発表。さらに、元大リーガーの野球選手、川崎宗則さんに厳しい世界で活躍する思考法や観察力の磨き方などを披露していただきました。

1月13日、於：鹿児島市、共催：鹿児島県農業法人協会、参加者：公庫お客さまなど122人（オンライン含む）



鹿児島県出身の川崎選手。経営に通じる内容に参加者は聴き入りました

◆ いつも楽しく拝読しています。1月号では「特別企画・輸出座談会 グローバル市場を切り拓く」が大変面白かったです。

登場する6人の輸出に対する想いや、試行錯誤しながら一步一歩前進する様子に、とても刺激を受けました。

私はナシ専業農家ですが、現状では、ロットを満たせないため個人での輸出はできないと思っ
ていますし、まわりで輸出に取り組んで
いる人もいません。しかしながら、農
政の動きとして、輸出についても
と勉強すべきだと感じました。

私が育てたナシが海外へ輸出さ
れる光景を想像して、ワクワクして
います。例えば、50余年前、私は内
閣府のおこなう国際交流事業「青
年の船」で、アジアやオーストラリ

アなど海外へ行きました。そのとき
寄港した7カ所の、優しかった皆さ
んに私の作った幸水、豊水を食べて
もらうんです。

デッカイ初夢です。書いている
だけで元気が湧いてきました。

丹精込めて育てた私のナシが海
を渡り海外の人に喜んで食べても
らえるとは感謝しかありません。

(福岡県筑後市 角繁男)



妻と孫と、改植6年生の豊水の前で

ご意見・ご感想をお寄せください

『AFCフォーラム』は農林漁業者、食
品事業者の皆さまに役立つ誌面づくり
をめざしています。参考になった記事、
取り上げてほしい企画、お気付きの点
など、メール、FAX、電話、郵送で編集
部までお寄せください。掲載させてい
ただいた方には薄謝を進呈します。

メール anjoho@jfc.go.jp

※こちらのコードも
お使いください →



FAX 03-3270-2350

電話 03-3270-2268

郵送 〒100-0004

東京都千代田区大手町1-9-4

日本公庫農林水産事業本部情報企画部

AFCフォーラム編集部あて

AFCフォーラム Forum 2022.3

編集

前田 美幸 今村 潤 高雄 和彦
山本 晶子 大谷 香織 城間 綾子
竹中 夕美

編集協力

青木 宏高 村田 泰夫

発行

株式会社日本政策金融公庫
農林水産事業本部

〒100-0004

東京都千代田区大手町1-9-4

大手町フィナンシャルシティ ノースタワー

Tel. 03(3270)2268

Fax. 03(3270)2350

E-mail anjoho@jfc.go.jp

ホームページ <https://www.jfc.go.jp/>

印刷 株式会社佐伯コミュニケーションズ

販売

株式会社日本食糧新聞社

〒104-0032

東京都中央区八丁堀2-14-4 ヤブ原ビル

Tel. 03(3537)1311

Fax. 03(3537)1071

ホームページ

<http://info.nissyoku.co.jp/koudoku/>

お問い合わせフォーム

http://info.nissyoku.co.jp/modules/form_mail/

■定価 523円(税込)

編集後記

④「わが国水産業の危機的状況にか
かる具体的問題は水産関係者の間
で共有されていない」とは特集の宮
原氏の言葉。末端ながら情報発信に
携わる弊誌にも耳が痛い。「仕組みづ
くりだけにこだわらず、できる事は
すぐ進めるべき」とも氏は説く。長
年、国際交渉の最前線に身を置かれ
今も全国各地の現場で相談に応じ
る氏の言葉を届けたい。(今村)

④「気候変動」に着目した水産特集。
「毎年1℃ずつ海水温が上昇してい
る感覚。低温を好むサーモンには厳
しい」とオカムラ食品工業の岡村社
長はお話しされていました。漁業権
の調整もあり、事業地の選択が難し
いなか、事業地が適地でなくなる事
は死活問題。回転寿司のサーモンを
愛する者として、地球温暖化防止の
決意を新たにしました。(高雄)

④「新・漁業人」でタチウオ漁師の池
田さんを取材しました。光を浴びて
きらきら輝く「田浦銀太刀」は本当に
美しく、感動。池田さんおすすめの食
べ方は「塩焼きでも刺し身でもうま
い。うろこを取る必要がなく、さばき
やすい魚です」。魚をさばくのが苦手
な私でもおいしく調理できるかもし
れないと、タチウオ料理にチャレンジ
したくなりました。(大谷)

④おニユーの長靴を履いて豊洲市場
での「農と食の邂逅」取材です。「仲卸
に必須の手鉤てかぎは長靴の中に入れるん
です。手が空くしなくさないから」と
中嶋さん。さすがプロ！と真似たい
衝動にかられました。
「俳句が告げる季節」は高さんが渡
米されるため今号が最終回です。独
特の情緒と優しさを含んだ俳句を、1
年間ありがとうございました。(城間)